

2014年7月7日

日本銀行大阪支店

近畿地域金融経済概況

【全体感】

近畿地域の景気は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているが、基調としては緩やかに回復している。

すなわち、個人消費および住宅投資は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているが、雇用・所得環境などが改善するもとで、基調としては堅調に推移しているとみられる。輸出は、なお横ばい圏内にあるが、電気機器の一部で持ち直しの動きがみられている。設備投資は増加しており、公共投資は高水準で推移している。こうしたもとで、生産は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動から減産の動きもみられるが、基調としては堅調に推移しているとみられる。この間、在庫はやや高めの水準となっている。雇用情勢も改善の動きが強まっている。こうした中、企業の業況感は、足もと消費税率引き上げの影響もみられているが、引き続き改善傾向にある。

先行きについては、海外経済、為替相場や金融市場、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などに注視が必要である。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、高水準で推移している。

輸出は、なお横ばい圏内にあるが、電気機器の一部で持ち直しの動きがみられている。

設備投資は、増加している。

個人消費は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているが、雇用・所得環境などが改善するもとで、基調としては堅調に推移しているとみられる。

5月の百貨店販売額は、曜日要因などもあって、前年を上回った。5月のスーパー販売額、家電販売額、乗用車販売は、駆け込み需要の反動から、前年を下回っている。この間、5月の外食売上高は、持ち直している。4月の旅行取扱額は、海外を中心に前年を下回っている。

住宅投資は、基調としては堅調に推移しているとみられる。もっとも、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動が引き続きみられている。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動から減産の動きもみられるが、基調としては堅調に推移しているとみられる。この間、在庫はやや高めの水準となっている。

生産を業種別にみると、輸送機械や鉄鋼、化学といった幅広い業種で、駆け込み需要の反動から減産している。一方、電子部品・デバイスはスマートフォン新製品向けの生産から持ち直している。この間、白物家電などの電気機械は在庫復元や受注残への対応から、底堅く推移している。

3. 雇用・所得動向

雇用情勢をみると、労働需給は改善の動きが強まっている。こうしたもとで、雇用者所得も改善の動きが明確化してきている。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、消費税率引き上げの影響から、高めの伸び率となっているが、消費税率引き上げの影響を除くと、1%台前半で推移しているとみられる。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて落ち着いた動きとなっている。

6. 金融情勢

預金残高は、このところ伸び率が幾分縮小しているが、緩やかに増加している。

貸出残高は、住宅ローンの増加や一部先の大口貸出の実行などを背景に前年を上回っている。

預金金利は、低水準横ばい圏内で推移している。

貸出金利は、小幅ながら低下している。

以 上